

# 北九州歴史文化遺産 第三十三回

# 万葉集



新勝山公園の万葉の庭に立つ歌碑



新勝山公園の万葉の庭に立つ歌碑

新元号「令和」の誕生で、その語句の源となつた万葉集への関心が高まっている。しかも、その舞台となつたのは同じ福岡県の大宰府。北九州にとつても密接な関わりがあり、万葉歌からは当時の北九州の人、歴史も偲ばれる。各地にある万葉歌碑から、その一端をうかがう。

**北九州市内の碑  
旅人の心を歌う**

豊國の企救の長浜行きくらし  
日の暮れゆけば妹をしそ思ふ  
作者不明

ある。王は天武天皇の孫で、持統天皇3年（689年）8月、大宰帥に任せられ、同8年（694年）、没した。自ら望んでこの地に葬られたといわれる。その妻手持女王の悲歌3首が残されている。

豊國の企救の長浜行きくらし  
日の暮れゆけば妹をしそ思ふ  
作者不明

ある。その中から一首。

豊國の企救の長浜行きくらし  
日の暮れゆけば妹をしそ思ふ  
作者不明

（原文はすべて万葉仮名。以下同）

みやこ町豊津にはまた、かつての豊前国府所在地だつたことを示す豊前国府跡公園を整備し、国府にちなんだ12首の歌碑を「万葉歌の森」で紹介している。これら歌碑の多くは一般的に市町村、文化団体などによる建立が多いが、北九州市若松区の大友旅人徒者の歌碑は、万葉歌をこよなく愛した女性古賀梅香さん

が、香春町の「梓弓引き豊國の鏡山」の碑は町教育委員村上利男氏が生前に鏡山を好きだった父親をしのんで建立したという。人それぞれに古歌に親しみ、愛することは、人を知り、愛することでもあるのかもしれない。

シニアスタッフ 村田和夫

遠のみかど大宰府と豊前国府結ぶ官道の分岐点で重要な宿駅が香春町であった。その重要性は近世まで変わらず、小倉藩が小倉城を自焼して去り、新たな藩序を置いたのも香春だった。現在までに、香春町関係の万葉

この歌を初めとして6首のうち5首はいずれも豊国の企救、長浜や高浜などを歌つたもの。企救の長浜、高浜とは現在の門司から小倉を経て戸畠までの海岸地帶のことで、かつて白砂青松の長い浜が展開していたと考えられる。他の1首も、戸畠のやはり海岸を題材にした作品。

この歌を初めとして6首のうち5首はいずれも豊国の企救、長浜や高浜などを歌つたもの。企救の長浜、高浜とは現在の門司から小倉を経て戸畠までの海岸地帶のことで、かつて白砂青松の長い浜が展開していたと考えられる。他の1首も、戸畠のやはり海岸を題材にした作品。

市には、他にもこの歌の碑のある小倉北区長浜の貴布祢神社、戸畠宮、若松区にも歌碑が立つ。

香春町鏡山に眠る河内王の陵墓参考地

歌は7首確認されている。

**豊國の香春は我家紐の兒に  
いつがり居れば香春は我家**

抜気大首

ある。王は天武天皇の孫で、持統天皇3年（689年）8月、大宰帥に任せられ、同8年（694年）、没した。自ら望んでこの地に葬られたといわれる。その妻手持女王の悲歌3首が残されている。

抜気がどのような人なのかは全く不明。大宰府へ任官途中の官人だと考えられるが、紐の兒という女性といえば心もなごみ、我家にいるような気がすると旅中の心情を吐露している。

香春にはこのほか、クラクリノスクリ按作村主益人という工匠巧みな帰化人系の人の歌も残されている。同町には宇佐神宮の神鏡を铸造し、鏡山という地名もあり、朝鮮半島からの铸造技術が根付いていたことがうかがわれる。

また、この鏡山には往時の皇族河内王が眠る勾金陵墓参考地



若松区で古賀梅香さんが建立した万葉歌碑と紹介する子息さん古賀文敏さん

**◆北九州歴史文化塾 ◆**

第33回 北九州歴史文化塾 行程表

時間	行程
10:00	城野駅南口集合
11:15	鏡山神社（田川郡香春町） 河内王の墓（宮内庁管轄）
12:30	（昼食各自）道の駅 香春
13:30	香春町歴史散策
16:00	城野駅南口解散

開催日時 9月26日(木)10:00～16:00  
集合場所 城野駅南口  
講 師 北九州シニア応援団スタッフ  
受 講 料 SAKURA 俱楽部会員 2000円  
一般 2500円  
(車・保険込) ※昼食各自  
参加お申し込み・お問い合わせ  
さくら編集部 ☎ 093-965-6080